

Strategic R&D Policy in a Quality-Differentiated Industry with More than Two Exporting Countries

神事直人（京都大学）

利光 強（関西学院大学）

要 旨

本稿で我々は第三国市場貿易モデルを用いて、品質が差別化された財に対する戦略的 R&D 政策について分析を行った。我々は3つめの輸出国を導入することで、既存モデルを拡張した。この拡張により、本稿のモデルは市場構造が3企業による国際寡占競争になっている。本稿の分析によって、3つめの輸出国の存在が戦略的 R&D 政策に影響を与え、2輸出国による複占競争のケースとは部分的に異なる結果が得られた。具体的には、市場競争(価格競争/数量競争)にかかわらず、最も低い品質の財を輸出する国は国内企業の R&D に対して課税を行う誘因をもち、中位の品質の財を輸出する国は国内企業の R&D に対して補助金を支出する誘因をもつことが示された。他方、複占の場合と同様に、最も高い品質の財を輸出する国にとって、一方的に最適な政策は市場競争の形態によって異なることが明らかになった。さらに本稿では、輸出国2カ国または3カ国で政策協調を行う場合の戦略的 R&D 政策についても分析を行い、いくつかの興味深い結果が得られた。

キーワード：戦略的貿易政策，R&D 補助金，垂直的差別化，寡占

JEL classification: F12; F13.